

日本イスパニヤ学会 2023 年度第 2 回理事会議事録

日時：2023 年 7 月 30 日（日）13:00～17:10

場所：Zoom 利用によるオンライン会議

出席者：安保寛尚、糸魚川美樹、松本健二、中井博康、仲井邦佳、成田瑞穂、西村君代、野村竜仁、大楠栄三、大森洋子、高松英樹、竹村文彦、立岩礼子、土屋亮、山村ひろみ、安富雄平（ABC 順）

欠席者：なし

議題：

< 審議事項 >

(1) 前回議事録の承認

・2023 年度第 1 回理事会（4 月 2 日開催）議事録案が承認された。

(2) 2023 年度第 69 回大会について

大会実行委員長高松理事より大会開催概要・プログラム案について報告され、以下のように審議・承認された。

・研究発表の申し込みが 16 件あり、辞退 1 件を除く 15 件が採択された。15 件のうち、諸事情により電子ツールの使用ができない申込者は、今後実行委員会との連絡等に支障がないことを条件で採択とする。

・締切後に申し込み内容に不備・不明な点等が判明した場合は、理事会の意見を待たず大会実行委員長より直接、発表希望者に問い合わせできることを確認し、その旨を大会運営マニュアルに記載することとなった。

・分科会の一部組み換え、誤字等の修正とともに大会プログラム案が承認され、分科会の司会を決定した。

(3) 投稿規程の改訂について

機関誌編集委員長野村理事より、機関誌への投稿電子化にともなう規程の改訂案、投稿用ウェブサイトおよび様式テンプレートの案が提示された。改訂案に軽微な修正を加えた上ですべて承認された。本規程、投稿サイトの URL および様式テンプレートは学会 HP にアップされる。また、投稿方法の変更について次号会報でも周知されることになった。

(4) 学会奨励賞規程の改訂について

・機関誌編集委員長野村理事より、前回理事会（2023 年 4 月 2 日）で審議された選考プロセス・対象を明文化した学会奨励賞規程の改訂案が提示された。「受賞者の選考と決定」の項について継続審議が必要と判断され、編集委員会においてさらなる修正を加えた改訂案、選考プロセスおよび審査委員の選出について明文化した内規を作成の上、第 3 回理事会にて審議されることになった。

(5) 大会講演者への謝金について

・会計大楠理事より大会講演者への謝金に関する内規の提案があった。審議の上、謝金は原則として 1 人 5 万円、本学会関係者は会員種別を問わず 1 人 3 万円とすること、特別講演等の場合は理事会にて増額を審議、決定することが承認された。講演者の旅費、また宿泊費等の諸経費は謝金とは別に大会開催校の規程に準じた額が大会開催費より支出される。

・本内規は今年度から適用され、第 69 回大会講演者の Concha Moreno 氏へは謝金 5 万円が支払われる。

・大会開催費については大会開催後に支出内訳を理事会にメールで報告することが申し合わされた。

(6) 個人情報取扱方針について

- ・会員の個人情報の適正な管理のための個人情報取扱方針案が提示され、承認された。
- (7) 理事の半数および監査の改選選挙の選挙管理委員会委員長選出について
- ・今年度実施する選挙の選挙管理委員会委員長に土屋理事が選出された。委員 2 名は未定。
- (8) 2024 年度予算案について
- ・会計委員大楠理事より 2024 年度予算案について説明があり、該当年でないため不要となる理事・監査改選費の項目を削除のうえ承認された。
 - ・大楠理事より購読会員に関する規程がないことが指摘され、今後確認のうえ協議されることになった。
- (9) 2024 年度第 70 回大会開催校について
- ・2024 年度大会は京都外国語大学にて開催されることが決定した。大会実行委員長は岡本信照会員。
- (10) 次回理事会開催について
- ・2023 年 10 月 14 日（土）10:30～ 中央大学多摩キャンパス フォレストゲート F504 教室にて開催することになった。
- (11) その他
- ・会計委員大楠理事より、会計報告書への会計委員の捺印が数年前より廃止されていることが報告され、監査の捺印について同様に廃止するかについて提議された。現状、監査へ会計資料が郵送されていることを踏まえ当面は捺印ではなく自署を記すこととし、資料の電子送付が可能になった段階で電子署名を検討することとなった。
 - ・機関誌編集委員長野村理事より、次号機関誌への投稿状況と査読結果について報告があった。投稿は論文 6 本（言語 4、言語教育 1、文学 1）、研究ノート 1 本。査読の結果、論文 2 本（言語 2）の掲載が決定した。また学会奨励賞への応募はなかった。
 - ・山村会長より、投稿者へ査読結果を早めに通知してほしいとの要望が学会員から寄せられたとの報告があった。投稿者には査読作業に時間がかかる点に理解を求めたいとの説明がなされ、さらに投稿の電子化により査読結果が判明するまでの時間がある程度短縮されることが確認された。
 - ・SOLTI の会員検索システムでは現状、名誉会員が検索対象から外れている点を修正するよう事務局（ガリレオ）に依頼することが承認された。
 - ・名誉会員の推薦基準の見直しについては継続審議とする。
 - ・諸規程のスペイン語訳作成については慣例どおりとし、最終的なチェックを専門家ネイティブに依頼する方向で協議を進めることとする。

<報告事項>

- (1) 会員異動
- ・2023 年 4 月から 2023 年 6 月までの新入会員は 2 名、退会者は 4 名であったことが報告された。2023 年 7 月 1 日現在の会員数は 342 名+19 機関である。
- (2) 会計報告
- ・会計委員大楠理事より 2022 年度の会計報告があった。今回の資料から、監査 2 名は捺印に代わり自署を入れることになる。
- (3) 会報の進捗状況
- ・広報委員中井理事より、会報 29 号発行準備の進捗状況が報告された。8 月 14 日を締切として原稿募集

中であり、現在、依頼原稿 9 本が提出されている。9 月末発行予定のスケジュールで進行中であり、359 部を印刷予定としている。また、会報 29 号の「HISPÁNICA 編集委員会より」では、投稿の電子化について周知する。

(4) その他

- ・機関誌編集委員長野村理事より、科学技術振興機構から依頼のあったオープンアクセス化チェックシートに「オープンアクセス化を検討中」との内容で回答を送付した旨、報告があった。